

共同生活援助 グループホーム清久 事業報告

平成 27 年度事業計画に基づき、以下のとおり事業を運営しました。

今年度は 8 ホーム、総定員 40 名で運営しました。また、平成 28 年 4 月に開設を予定しているグループホーム「うちや」（定員 4 名、短期入所 1 名）の開設準備を、法人本部、支援センターと協働で行ない、完了しました。

1 定員の充足

- ・久喜けいわの就労継続を利用している男性 1 名と他法人の児童入所施設を卒業した男性 1 名が、グループホーム体験利用を経て新たに入居しました。
- ・老朽化している賃貸物件の改築を視野に入れ、定員充足せずに空き居室を設け、改築中に入居者が仮住いできるようにしました。空き居室は、体験利用の居室として利用しました。
- ・現在の入居者の状況は以下の通りです。

< 定員内訳 >

ホーム名	清久	上清久	ハイツ 清久	のぞわら	仁丁町	こがらい	おぎそね	こすもす
定員	7 名	4 名	4 名	3 名	4 名	7 名	7 名	4 名

< 男女比・年齢構成 >

	20 歳～29 歳	30 歳～39 歳	40 歳～49 歳	50 歳～59 歳	60 歳～69 歳	70 歳～79 歳	合計
男性	4	5	7	2	3	4	25
女性	0	0	3	2	5	1	11

< 平均年齢 >

	平均年齢（男女別）	平均年齢（全体）
男性	48.6 歳	51.6 歳
女性	57.7 歳	

< 障害支援区分・総合判定・年金等級 >

	障害支援区分					総合判定				年金等級		
	6	5	4	3	2	Ⓐ	A	B	C	1	2	未
男性	2	7	7	5	3	1	8	13	2	4	18	2
女性	0	5	5	2	0	1	8	2	1	5	6	1
	2	12	12	7	3	2	16	15	3	9	24	3

<日中活動場所>

○就労

会社名	仕事内容	人数
(株)なとり	食品加工・荷物運び	2人
(株)ウィズウェイストジャパン	リサイクル	2人
(有)高野産業	配送補助	1人
松勘工業(株)	武道具生産	1人
(株)きのえね	清掃	1人
(福)久喜けいわ	洗濯・清掃	1人
(株)ネアス	クリーニング・掃除	1人
(株)流通サービス	物流・箱出し	1人

○福祉事業所

事業所名	サービス内容	人数
久喜けいわ	生活介護	4人
久喜けいわ	就労継続B型	14人
久喜けいわ	就労移行	3人
久喜市 あゆみの郷	生活介護	3人
久喜市 あゆみの郷	就労継続B型	1人
宮代町 ひまわりの家	生活介護	1人

2 支援体制の整備

- ・昨年度と同様の職員数で入居者への支援にあたりました。職員募集は難しく、課題となっています。
- ・入居者への日常生活の支援や余暇活動の充実が図れるように、世話人と生活支援員がチームを組んで協力支援を行いました。

3 地域生活者としての自立支援

- ・金銭管理については、自らが計画的にお金を使えるよう出納帳を活用し、日々の買い物等の実践を繰り返し体験することで、収支の流れを理解できるように努めました。予定外のものを購入し、使いすぎてしまうこともあります。失敗することで学ぶことも多く、少しずつ計画通りお金が使えるようになってきています。
- ・「あじさいの会」の開催は、入居者が増えたことで、全ホームでの定期的な開催が難しくなりました。会を楽しみにしている入居者も多く、開催方法について検討中です。
- ・昨年に続き、単身生活を望む入居者の為に、サテライト型住居を設置する予定でしたが、近隣に賃貸のアパートが見つからず実現しませんでした。日々の生活の中で一人暮らしを想定した支援を行うようにしました。

4 地域社会活動への積極的な参加

- ・地域住民の一員としての役割として、地区の清掃や草むしり、ゴミ当番、きよく大運動会

のテント設営、地域行事準備等を手伝いました。

- ・「清久婦人会」に4名の入居者が会員とし、地域活動や交流会、地域行事の手伝い等に参加しました。単身生活を希望している女性1名は、太平山への日帰りバス旅行に参加させてもらいました。

5 医師、看護師、栄養士と連携した健康管理の充実

- ・年に1回、就労先や啓和会が行う健康診断を受けました。有所見者に対しては、嘱託医に相談し必要に応じて病院に受診しました。日常生活での疾病や怪我について、看護師の指導のもと病院に受診しました。
- ・健康状況の把握は毎日各ホームにて行いました。日頃より、手洗い・うがいを実施し感染予防に努めました。
- ・生活習慣病の予防として、必要に応じて管理栄養士に食事相談をし、アドバイスを参考にバランスの良い食事提供を心がけました。

6 自主的な余暇の充実

- ・地域行事には積極的に参加し、地域の人と交流しながら楽しむことができました。
- ・入居者の要望から、コンサート、日帰り旅行等にでかけ、楽しむことができました。
- ・久喜市フレンドシップ学級やみんなの会に参加し、啓和会以外の人との交流ができました。また、マラソンクラブ、音楽クラブに参加し、日頃の練習や大会、発表会を通じ、本人の自信、やる気につながりました。

7 関係機関との連携

- ・平成26年に入居した触法障害者（男性）について、行政、日中活動事業所、支援センターと連携し協働で支援を行いました。できないことに少し手を貸し、相談できる職員が多かったことで、安定した生活が送れています。
- ・ホームから単身生活した人への相談や訪問等を支援センターと協働でサポートしました。
- ・日中活動や健康に課題がある76歳の男性入居者の要介護認定、高齢者施設の利用申請を行い、高齢者サービスの利用を開始しています。

8 家族との関係

- ・サービス内容の説明や手続き等について、職員が家族と連絡を取り合いました。本人からは、手紙や電話などで近況について家族に連絡が取れるように支援しました。
- ・成年後見制度に関しては、現在36名中7名が利用しています。

9 危機管理の徹底

- ・日頃より、入居者へ火災の恐ろしさを伝え、火災予防に努めました。
- ・各ホームで危険箇所の点検と老朽箇所のメンテナンスを定期的に行い、必要箇所は早急に修繕をしました。
- ・久喜消防署立会いの下、消火訓練、通報訓練、避難訓練を行いました。また、久喜市総合防災訓練や地区の防災訓練に参加し、消火訓練や炊き出し訓練を行いました。実践を通し入居者と職員の防災に対する意識を高められるように努力しました。

- ・交通安全について、徒歩で通勤する入居者が車と接触事故がおきないように、安全な通勤経路の再確認を行いました。
- ・本人が物品の購入や宗教勧誘などで不利益をこうむらないように、日頃から助言を行い、何かあれば相談しやすい環境を整えています。

10 人材育成

- ・虐待防止研修に多くの職員が参加しました。権利擁護への知識や意識を高め、日々の支援の振り返り、入居者へのサービスの質の向上に努めました。

○研修実績

(外部研修)

研修名	主催	日時	場所	参加者
障害支援区分認定調査員研修	埼玉県障害者支援課	7/2	浦和合同庁舎	金子
埼玉県発達障害福祉協会青年部会研修旅行	埼玉県発達障害福祉協会	8/20～ 8/21	社会福祉法人 佑啓会	相馬
全国グループホーム研修宮城大会	日本知的障害者福祉協会	8/25～ 8/26	仙台サンプラザ ホテル	齋藤(暁)
障害者虐待防止研修	埼玉県障害者支援課	9/15	浦和合同庁舎	相馬 小池 飯島 嶋田
障害者虐待防止研修	埼玉県障害者支援課	9/24	春日部地方庁舎	矢治 前田 浅野 高橋(京)
関東地区知的障害関係施設種別代表者会議	関東地区知的障害者福祉協会 埼玉県発達障害福祉協会	11/10～ 11/11	大宮ソニック パレスホテル	金子 相馬 佐々木
ホーム世話人研修	埼玉県発達障害福祉協会 地域生活支援部会	11/26	すこやかプラザ	齋藤(暁) 今井 高橋(朋)
埼玉県発達障害福祉協会青年部会研修	埼玉県発達障害福祉協会	11/27	すこやかプラザ	相馬
虐待防止研修	関東地区知的障害者福祉協会	12/18	株式会社発明会館	高橋(智)
平成27年度施設長及び幹部職員研修	埼玉県社会福祉協議会	1/21	すこやかプラザ	金子
社会福祉施設災害時対応研修	埼玉県社会福祉協議会	3/16	すこやかプラザ	矢治

- ・サービス管理責任者(地域生活)の資格を1名(高橋智)取得しました。

(内部研修)

研修名	内容	日時	場所	参加者
障害支援区分認定調査研修会	認定調査時の聞き取りの仕方	11/18	久喜けいわ 喫茶談話室	金子 矢治 齋藤(暁)
障害者虐待防止研修	虐待と自己覚知 大竹先生	3/5	久喜けいわ 機能訓練棟	金子 相馬 矢治 齋藤(暁)

重点項目の達成状況

1 防災体制の強化、緊急時の避難体制

- ・消防署立ち合いの下、ホームで消火訓練、通報訓練、避難訓練を行い、その他、地区の防災訓練等に積極的に参加しました。各ホームで顔を覚えてもらえるように、日頃から近所付き合いを大切にしました。
- ・夜間、毎日ホームの巡回を行ない、火の元の確認を徹底しました。

2 高齢者及び医療的ケアが必要とされる入居者に対する支援

- ・入居者の健康を知るために、日々のバイタルチェックを継続しました。病気などの早期発見ができ、すぐに対応することができました。
- ・高齢化に伴い、生活習慣病のある入居者が増えてきています。食事や運動について本人と話し合い、健康に関する意識が向上するように努めました。

3 個別支援計画の作成に係る、一連の業務の再確認

- ・PDCA サイクルに基づき、アセスメント、個別支援計画作成会議、プラン作成、プラン実施、モニタリングを実施しました。特に、個別支援計画作成会議を実施し、利用者の要望、ニーズ、目標、支援内容等を職員全体で共有できたことは効果的でした。

4 サービス等利用計画の作成の協力

- ・障害者生活支援センター「きよく」の相談支援専門員がグループホーム入居者全員分のサービス等利用計画を作成しました。グループホームでは、アセスメント、モニタリング時に情報提供を行い、計画作成に協力しました。
- ・サービス等利用計画を通じ、本人、家族がグループホームに関心を持ちグループホームの支給決定を受け、体験利用をする人が増えました。

5 老朽化している賃貸物件について

- ・グループホーム「仁丁町」の改築について、家主と法人本部で話し合いました。現在、調整中です。

6 新たに予定しているグループホームの設置

- ・グループホーム「うちや」(定員4名、短期入所1名)の開設に向けた話し合いを法人本部、支援センター、ホームで定期的に行いました。年度内に開設準備は完了しました。